Toyama Design Center
2019

# Design Report vol.03

研究者／副主幹研究員　堂本　拓哉

**「とやまD'DAYS」は、「会うことで生まれるデザイン」をキーメッセージにしたセミナー、企画展示、見学ツアーからなる総合的なデザインイベント。第２回目となる今回は、「コアコンピタンス（強み）」をテーマに開催。「強みを見つけ、どう活かすか」の視点から、私たちの暮らしに影響を与えるであろうロボットとモビリティに着目し、テクノロジーとデザインの融合による社会変革の可能性を探りました。**

## デザインにかかわる人と企業の交流イベント「とやまD'DAYS 2019」

### 新しい社会を支えるテクノロジー×デザイン

1990年代から現在にかけて、自動化や情報化といったデジタルテクノロジーの急速な進歩により、私たちの暮らしはかつてないスピードで移り変わろうとしています。あらゆる分野で効率化や均一化が進む一方で、製品開発に取り組む企業は複雑化する社会に対して、自社だけで解決できない課題を抱えています。企業が蓄積してきた「コアコンピタンス(強み)」を捉え直し、それを次世代産業の創成にどうつなげていくか。「とやまD'DAYS 2019」では、先端テクノロジーの代名詞、ロボットとモビリティの分野から6人の講師をお招きして、デザイナーの柔軟な思考法によって製品の社会的なミッションを明確にし、それを実現するプロセスを組み立て実行した事例を紹介いただきました。

### 用途から心に働きかけるデザイン

セミナーでご紹介した電動車椅子「WHILL」と家族型ロボット「LOVOT（らぼっと）」の事例は、それがあることで人の内面がどのように拡張されていくのかをユーザー体験や実証実験から紹介されたことがとても印象的でした。「WHILL」は身近な行動範囲に多々とある段差、悪路のハードルをものともせず自分一人でどこにでも行ける自信をユーザーに与え、「LOVOT」は生命感や愛らしさを最先端のテクノロジーで実現し、ロボットなのに放っておけない存在を生み出しました。

今回のイベントでは約80名の参加者が実際に試乗・体験。物理的な用途を中心とする領域から、心に働きかける精神的な作用を中心とする領域へと人を誘う「デザインとテクノロジーの融合」を肌で感じました。